

合同支部会が開催された

11月10日(土)午後から11日(日)にかけて今年で11回目の合同支部会が箱根湯本温泉「ホテルおかだ」において開催された。岸部理事長の開会の挨拶の後、**組合員への連絡事項**として、賛助会員のコンドーテック、大日本塗料、日東亜鉛、フルサト工業がそれぞれ新商品の紹介や商品の特性などを発表し、組合からは来年2月から労安法令の改正で新フルハーネス型安全帯の着用が義務化されるため石井副理



事長から、着用の条件、特別研修を実施する場合は国の補助があるなど概要について説明があった。また、新安全帯の構造規格品はまだ製造されていないので購入ができない、経過措置として旧安全帯は2021年12月まで使用が認められると補足された。次に**経営研修会**として「持続可能社会実現に向けて、東京製鐵の取り組み」について電炉メーカートップの東京製鐵の浅井建材部長等3名の講師により、主として電炉材の環境への取り組みと品質に

ついて電炉工場での鉄生産の動画もまじえ説明があった(要旨は別掲)。また、今後の鉄鋼需要の動向を伺ったところ、オリンピック後も首都圏の再開発は続くし、何よりインフラの老朽化問題が喫緊に迫っているため鋼材需要は落ち込むことはないだろうとの回答でした。その後、休憩をはさんで**賛助会員との交流懇親会**が行われ懇親の和をさらに深めることができた。参加者は組合員36名、賛助会員16名と今年も盛況であった。

Mグレード部会開催

11月21日(水)15時から組合事務所で開催された。10月に実施された会員間での工事請負価格実態調査の集計結果が発表された。20t、50tクラスでの工作図・材料・工場加工・塗装・検査・建て方・運搬・現場加工などの鉄骨工事、アンカーセット・床・階段・胴縁・スリーブなどの付帯工事及び現場鍛冶・鳶工事と詳細にわたる価格調査で、見積価格でなく実際の取り決め価格なので大いに参考になるものであった。集計結果はニュースで取り上げると対外的に漏れる恐れがあるので公表は差し控え、会員間での共有と



研修「持続可能社会実現に向けて東京製鐵の取組み」要旨

○資源循環と低炭素社会へ

世界の粗鋼生産量(2018年実績)は17億トン弱で、半分は中国で生産され、日本は1億トンで間もなくインドに抜かれる状況にある。電炉生産は莫大な電気を使うためアメリカ、EUなど先進国は電炉比率が高いが日本は歴史的に高炉が主体となっている。世界の環境トレンドはパリ協定などルール決めが行われているが再生可能エネルギーのコスト低下により電炉材はますます環境負荷が低いものになっていく。建築業界にあっても環境に根差した規準である米LEED認証の普及が進み、これからは環境に貢献できないと投資も受けられなくなる。鉄鋼蓄積量は日本は13億トン台で2030年でも14億トン台だが中国は73億トンから136億トンと蓄積量の増大が続く、現在日本は鉄スクラップを中国・韓国に輸出しているが将来は輸出する必要がなくなる。世界の鉄スクラップ発生量が増大するので電炉メーカーはどうリサイクルするか求められている。世界経済の成熟化や電炉材はCO2排出量が高炉の約4分の1程度に削減されるなどにより今世紀半ばごろより鉄生産の比率が高炉より電炉製鋼が主流となると見られている。

○電炉材の品質

電炉と高炉の製鋼法の違いは主原料と鉄の溶かし方にある。昔は非鉄元素が混じり、割れや折れの原因となっていて電炉材は品質が悪いといわれてきたが、スクラップの選別加工には検収規格に準じて細かく分別しており、硫黄・チツソ・銅などの含有を制御する技術も発達してきていて、品質では電炉と高炉との違いはなくなっている。レーザー切断性に優れた製品も出来ている。

となる。また、来年からの(有)佐藤鉄工の入会が決まった。
 市況情報では、現在はハードな稼働となっている、手持ち量は来年の2～5月分まで確保。単価は材料費が騰がっているが加工費は相変わらずで建て方込みで25万程度。鋼材が12月から騰がるようだ、ボルトも単価アップしている。BCR不足でH鋼への変更要求の声もあった。ボルト、鳶、トラック等の確保が難しく現場工事での赤字リスクを抱えている。そのため現場工事をやらない企業も数社ある。ボルト等の手当を付けてから正式に契約する、あまり無理して取らないようにしている、ボルトは車輛製造と同じで取り合いになっていて増産は1月以降との声もあった。施工図の承認遅れは相変わらずで、資材副資材及び作業者の不足で予定が付きにくい状態となっている。

組合優良役員神奈川県知事表彰受賞
 澤田和夫副理事長は県中小企業団体中央会の推薦により永年組合役員を務め組合の発展に大いに貢献されたとして11月26日(月)午後神奈川県庁大会議場において組合優良役員神奈川県知事表彰を受賞されました。



性能評価事前講習会の開催

11月15日(木)15時から組合事務所で開催した。後期申請を予定している新規グレード取得を目指している2社を含め4社が参加し、講師は教育技術委員会の5名が担当した。この4月から適用された懸案となっていたダイヤフラム板厚制約問題やノンダイヤフラム工法等設計製作の自由度の拡大が図られた性能評価基準のうちの適用範囲の改正、及び後期審査から適用されるレーザー孔あけ加工、30度開先、高力ボルトの摩擦面の薬剤処理等が追加承認されたJASS6鉄骨工事標準仕様の改訂について説明があり、工場審査における流れと審査に臨んでの注意点の連絡があった。また、Mグレードの品質管理責任者の管理技術者兼務解消期限は32年度末に迫っており、解消時には全鉄評に変更届を提出しない場合はグレードが取り消されること



の注意点が提起された。その後、小原委員長から工作基準等各社内基準の作成・改正ポイントについてプロジェクトを使って詳細に解説があった。質疑応答では、非接触型表面温度計での測定の可否などが議論された。

青年部の横顔

No. 12



マイカ工業(株)
 専務取締役 糀 博史
 相模原市緑区橋本台2-7-2
 TEL 042-772-6318
 FAX 042-772-2947
 E-mail
 maika@tbd.t-com.ne.jp

弊社は、昭和35年にボイラー関連工事の企業として設立しました。工場は、相模原市にあり、圏央道の開通、基地返還、リニア駅関連で、現在周りの環境は大きく変わりつつあるところと

私もこの業界に入り今年で10年になりますが、まだまだ分からないことが多く、入社から比較的早い段階で青年部に参加させて頂き、色々教えてもらうことができ幸せだったと思います。青年部では、年齢の幅はありますが比較的近い立場の人が多く、工場での役割に近い人が多いので、話の内容が非常に自分の為になりました。こういった会話のできる人脈が出来るのもよかったです。懇親会も楽しく参加させて頂き、話も参考になることが多く、大変感謝しています。これからは勉強させていただくことになるかと思いますが、いつかは逆に貢献できるように頑張りたいと思います。

趣味は以前釣り、サッカーに熱中していました。

関東支部女子職員研修会

11月22日(木)11時30分よりAGITO(さいたま県大宮駅前アイスビル4階)にて関東女子職員研修会を開催しました。関東女子職員会議が復活して今回で5回目となります。当日は、大竹関東支部長以下、7県8名の女子職員(+開催県埼玉の理事長・事務局長)が集まり総勢11名となりました。今回は書類整理の方法、各県の業務内容、周年記念事業の大変だった点、旅費日当負担の件等事前にテーマを決め、自己紹介や各県状況報告、情報交換をしました。また各県PR用に配布のパンフレット・広報誌の交換があり、神奈川県ではこの



「かながわ鉄構協ニュース10月号」を配布しました。料理と共に話は尽きず楽しいひと時を過ごしました。
 [小宮]